大人が絵本を
第62回　輝くいのち

司書・読書アドバイザー　安藤　宣子※
小児歯科医師　濱野　良彦※※
※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）
※※ 医療法人元気が湧く　理事ファウンダー

Mamiversary !!

今、一冊のシンプルな絵本に、静かな光が当てられています。まなざしを向け合って寄り添う母児が線画で描かれた表紙には、銀色の文字で『ママ』の二文字と、上部に「Mamiversary」というスペルがあります。

『ママ』
むろぞのくみ、
まなべなほ　作
（主婦の友社）

全国のママたちの声から生まれた絵本『ママ』は、育児の不安も喜びも、悩みも幸せも、ママ目線でストレートに表現されています。出産して、「はじめてだらけ」の毎日が、宝物の時間となっていく姿が描かれている、ママにもパパにも幸せを呼ぶ絵本です。

この絵本は、2011年３月11日の東日本大震災で被災しながら出産した岩手、福島、宮城県のママたちへ、「赤ちゃんの１歳のお誕生日に」サプライズプレゼントされたハートフルな絵本なのです。刊行された2012年のキッズデザイン賞「復興支援デザイン賞」を受賞した本書が、2018年に装いも新たに発売されると、再び当てられた光に「ママ」の注目が集まっています[1)]。

「Mamiversary」を生みだしたのは、ママ向けの広告制作に携わってこられた女性クリエイターである２人の作者でして、「Mam」＋「anniversary」の造語は、「頑張っているママの記念日」の思いが込められているのです。新米ママへ、これからママになる妊婦さんへ、子育て応援絵本として手渡してほしい一冊です。

伝えたい。命を守る使命

出産という「産みの苦しみ」とともにやってくる赤ちゃんの誕生は、とてつもなく幸せでかけがえのない命です。十か月間、お腹の膨らみに合わせるように日一日と期待と不安を募らせ、母親となる心の準備を整えながら、わが子との対面を果たすママたちですが、その瞬間が育児のスタートなのです。慣れない子育てや、これまでと一変した生活に戸惑い、迷い、思い詰めることもあるでしょう。でも、とにかく幼い命を守る使命があるのです。産まない自由に、産む自由、そして産む自由を選んだ人には、授かった命を守る使命です。

それなのに平成末期から新時代の日本で、何とも痛ましい事件が連続し、光輝く幼い命が次々とその短い生涯を閉じる悲劇が起こってしまいました。私たちに防げたことがあったはずと、誰しもが胸を痛めました。

耳をすまして。子どもたちの声

2018年３月に亡くなった東京都のゆあちゃんのノートには、５歳とは思えないしっかりとした文字と文章が綴られていました。「これまで どれだけ あほみたいに あそんでいたか。あそぶって あほみたいなことやめるので。もう ぜったいぜったい やらないからね」。５歳児さんの日記を活字にさせていただくには、心底辛い文言です。フロイトやピアジェ他多くの心理学者が、「遊び」を認知発達的に唱えているとおり、幼児期は遊びを通して様々なことを学んでいく時期であるのに、十分な食事すら与えらないまま、５歳児が一人で抱え込んでいた心情を考えると、胸が締め付けられます[2)]。

手にするときは！

STOP！虐待

企画　濱野　良彦
構成　木須　信生※※※
※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）

翌年１月には千葉県で、小学校にSOSを出していた10歳の心愛さんが父親の暴力で亡くなりました。防げたはずの虐待死が続いたことで政治が動き、親権者らによる「しつけ」としての体罰禁止を明文化し、また児童相談所の「介入」機能の強化を目指した改正児童福祉法案が審議されている最中、札幌市で２歳の詩梨ちゃんが衰弱死する事件が起こったのです。同じ６月、改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が成立した直後に、鹿児島県で４歳の璃愛來ちゃんが虐待によって命を奪われる悲劇は繰り返されました。

新潟県では生後３か月の第二子を、母親が自宅の吹き抜けから階下に落とす痛ましい事件も起こっています。この母親は育児休業中でしたが、夜の授乳による不眠などの悩みを訴えていたといいます。そして、本原稿を執筆最中にも、さらに付け加えなくてはならない理不尽な事件報道が飛び込みました。埼玉県で、義父に命を奪われた小学４年生の遼佑くんです。かけがえのない命を、大人の身勝手で奪うことを阻止しなくてはなりません。

幸せなママの、幸せな子ども

すべてのママが、ママであることの幸せを感じられますように。幸せなママのもと、幸せな子どもたちが育っていきますように[1]。

絵本『ママ』の作者お二人が、「がんばっているママの記念日」に込めたメッセージです。「すべてのママが、ママであることの幸せを感じられる」ために、もしも子育てで思い悩んだときに、気軽に相談できる親近者がいて、もしも育児に行きまったときは子育てコミュニティに足を延ばし、ふとストレスを感じたら絵本でリラックスをするような、上手な育児ライフをみつけてほしいと願います。その支援や提案ができるのは、子育て真っ只中のお母様の身近にいる私たち大人です。

一人ひとりの赤ちゃんは、神様から「個性」という贈り物をもらって生まれてくるお話『かみさまからのおくりもの』の作者である樋口通子氏は、「幼い子どもはなにもできないようにみえて、大人には難しい無条件の愛を差し出すことができます。そのような子どもを神様からこの手に託されていることの畏れを感じ、畏れの前では謙虚になることを忘れずに、二度とかえることのない育児のときを、子どもと共に思い切り楽しみましょう」と話しています[3]。今回続いた虐待で命を落とした子どもたちの母親・父親と、すべての子育て中の保護者に届けたいメッセージです。

また、事件報道で垣間見られた、母親が「ママ」以前に「女性」でいたいという気持ちを支える大人が身近にいたならば、大切な命を奪うことを回避できたのではないでしょうか。虐待という最悪の状態に追い込まれる前に、私たちに防げる行為がたくさんあると思うのです。海外では当たり前となっている里親制度の推進も課題です。福岡市はここ10年間で里親制度の導入を27.1％伸ばしており、平成28年度末39.7％の報告では「数年間で最も委託率を伸ばした自治体」として、視察対象とされています[4]。虐待死を未然に防ぐことのできる養育里親も、この時代には大きな助けなのです。

ママはみんな悩んでる

いつもお話していることですが、絵本と図鑑の親子ライブラリー「ビブリオキッズ＆ベイビー」では、

毎日が育児相談です。でも、それが日常になると、特段に捉えてはいません。ただ、お母様の日常会話に応答しているだけなのです。それだけでお母様もお子様も、ステキな笑顔で帰られます。いえ、その間に絵本を介すると、極上の笑顔で帰路に着かれるのです。

生後10か月くらいから3歳児くらいまでのお母様のお悩み吐露時、よく登場させる絵本は『いっさいはん』です。1歳半くらいの子どもの生態が示された図鑑系絵本は、乳幼児の“あるある”に「現在のわが子がこうあって当たり前なんだー」と大笑いしてスッキリされます。

『いっさいはん』
minchi　作・絵
（岩崎書店）

子どもが自分の思い通りにならずグズるとき、抱っこしてあやそうとすると、それすら拒否して両手をあげてずり落ちようとする図も、ママが片づけをした後から後から散らかしていく図も、「これ、うちの○○ちゃん！」と絵本のページを嬉しそうに見せて下さいます。育児疲れも笑って吹き飛ばす魔法の絵本はたくさんあるのです。

ママの聞き役になって……

ビブリオ会員のお母様方は、日常的にお悩みを口にできていますが、全国には、同じような悩みを持っていても話し相手がいなかったり、どこに相談したらよいのか分からなかったりしていて、そのまま悩みを抱え込んでいき、行き詰ってしまうママもおられます。それが行き着くところ、悲しい事件に発展してしまうことにもなり得るのです。私たちにできることとは、聞き役になること、ママが安心できるメッセージや情報を伝えることではないでしょうか。

私たち「医療法人 元気が湧く」は、小児歯科を3院と図書館1館を運営しているうち、図書館を併設している医院は、福岡市南区大橋の「こどもの歯科」だけですが、他2院では絵本コーナーを充実させ、待合室でおはなし会を催したり、テーマ別図鑑展を開催したり、はたまたフッ素中などチェアサイドで読みあいをしたりと、小児歯科において「医療文化」事業を展開しているところです。

福岡市城南区別府にある「KiD's歯科べふ」で、院内おはなし会“Kid's Class”をはじめて5年半が経った今年9月に、記念の第100回を迎え、また新たな育児支援に着手することができました。ビブリオキッズで日常的に受けている育児相談を、図書館施設のない歯科医院でやってしまおうというものです。スタッフ名付けて「子育て応援パパママトーキングクラス」には、生後2か月、3か月、9か月児さんを抱っこしたママたちが集まりました。院内おはなし会をはじめて2年間は、0歳～2歳児クラスに赤ちゃんの参加はなく、2歳前後のお子様が参加していましたが、3年目当たりから0歳児さんが参加を始めて、対象を0歳～1歳児クラスに切り替えられた経緯もあります。私たちもまた、別府という地域の住民方々に支えられて前進しているということです。

子育て応援パパママトーキングクラス

開口一番のご相談は、2歳半のお姉ちゃんの指しゃぶりでした。この座談会以前にも、専門家である歯科医師に相談済みなのですが、なかなか改善できず、ママには継続的な悩みとなっていたようです。話せる相手にはどんどん聞いてみたいものです。その中で解決の糸口がみつかる期待があるからです。私たち司書の育児支援は、絵本が基盤です。図書館内のように現物を手渡せなくても、絵本『ゆびたこ』を取り上げてお話をすると、お母様はすっかり明るい日差しを見出し、次の育児法を開

ビブリオベイビー BiblioBaby

連絡先　福岡市南区大橋 3-2-1 2F
絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ
TEL 092-557-3272　URL http://bibliokids.jp

E-mail
安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
濱野：hamano@genkigawaku.com
木須：nobuokisu@gmail.com

眠したようでした。

『ゆびたこ』
くせさなえ　作
（ポプラ社）

特筆したいのは、この座談会に「相談することはないから」と参加意思のなかったお母様をおはなし会終了後、ご案内すると「聞いているだけでいいのなら」とご参加くださったことです。「相談はない」はずが、他のママが尋ねた質問に、「うちもです」、「うちもそうです」と身を乗り出して聞き入っておられました。会が終わってからは、「指しゃぶりの絵本の名前を教えて下さい。買ってみます。」という直接質問もお受けしました。こういった雑談で、お母様には悩みと感じていなかったことが、良好な道しるべとなることもあるのです。小さな小さな、でも大きな育児支援が小児歯科でできるのです。

話してスッキリ！　聞き役がいてホッコリ！笑ってニッコリ！

ある日急に、「お姉ちゃん」となった２歳のＡちゃんは、お姉ちゃんになってから時々、顔を斜めに傾けて目を引きつらせるようになった異変を、２児の母としてリスタートしたお母様は見逃しませんでした。突然に「妹」だという赤ちゃんが家族に加わり、パパとママの目が二分され、自分の意思に関係なく「お姉ちゃん」となって、戸惑いながらも一生懸命に闘っていたのでしょう。

そこで紹介した絵本は、『だいすき ぎゅっぎゅっ』（岩崎書店）と『おかあさん だいすき』（フレーベル館）です。お姉ちゃんとママ２人きりの時間を毎日もって、「大好き」の言葉とともに、ぎゅーっと抱きしめてあげて下さいとのアドバイスに、お母様は絵本のタイトルをしっかりメモされました。

読者の皆様はもうお気づきのことと思いますが、ママのお悩みとは、どこか類似したことがらだったり、悩みは異なっていても解決の手立ては同一方法であったりするのです。また、大きな「悩み」となっているママがいらっしゃれば、「悩み」の自覚のないママもおられます。だからこそ、悩みがあってもなくてもママ同士の会話は、ママにとって、お子様にとって、とても大切なことなのです。ママが「楽しい」と思える時間をもつことが一番です。

「絵本は育児書」を小児歯科から

小児歯科医療の現場に従事されている皆様方は、日常的に小さなお子様と、その保護者様と接しておられますので、きっとお子様やお母様のSOSをキャッチすることもあると思います。SOSを発信しやすい環境づくりも、医療現場では重要なことです。それは、会話によるコミュニケーションが一番ですが、絵本による気付きや癒しもあります。育児で疲れたとき、子どもと少し距離を置きたいと感じたときに、大人が絵本を開くことでホッとしたり、思考のヒントをもらったりすることもあるのです。『だいすき ぎゅっぎゅっ』のような、大人も子どもも笑顔になる絵本を待合室に並べて、幸せをふりまいて下さい。

「ちりも積もれば」、感情を抑えられなかったり、やり場がなかったりするのは、当然のことです。一日の就寝前に、お子様と絵本を読みあう時間や、絵本の一人読みをする時間は、心の安寧にもなります。絵本の中の子どもたちと大人たちに教えられることもたくさんあります。絵本は、育児書でもあるのです。

文献
1）もろぞのくみ，まなべなほ：ママ，主婦の友社，東京，2018.
2）M・J・エリス著，森　楙，大塚忠剛，田中亨胤訳：人間はなぜ遊ぶか－遊びの総合理論，黎明書房，東京，pp.121-131, 2000.
3）ひぐちみちこ：子どもからの贈り物－“お母さん”であることを楽しむために，こぐま社，東京，pp.90-103, 1998.
4）厚生労働省：里親制度について，厚生労働省HP https://www.mhlw.go.jp